



日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2020 年大会 開催報告

斎藤広隆

2020 年日本地球惑星科学連合 (JpGU) 大会は第一回から数えて 30 周年かつ米国地球物理学連合 (AGU) との共催 2 回目ということで、当初は 2020 年 5 月 24 日から 28 日の 5 日間に渡って、千葉県幕張メッセ国際会議場を中心として開催される予定で準備が進められていた。しかし、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大の影響を受け、大会予定日の約 1 か月前に急遽完全オンライン開催 (Zoom によるライブ配信と iPoster の併用) が決まり、2020 年 7 月 12 日から 7 月 16 日へと開催が 7 週間延期された。急な変更にも関わらず運営事務局の尽力により、今年度大会もセッション数 288 件、参加者数約 6000 人と、例年と遜色ない規模で開催された。当日はシステムトラブルが発生するなどいくつか問題があったものの、無事全日程が終了し、開催時点では世界最大規模のバーチャル国際会議の一つとなった。

JpGU は非常に幅広い分野をカバーしているため、連合大会のセッションは宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学、教育・アウトリーチ、領域外・複数領域、の 7 つのカテゴリーと、二つの特別セッション (ユニオン、パブリック) に分類される。2020 年度大会は、大気水圏科学と地球人間圏科学のカテゴリーにおいて、土壌物理学

会共催のセッション 4 つが開催された。セッションタイトル: Subsurface mass transport, material cycle, and environmental assessment (地質媒体における物質移動、物質循環と環境評価) [大気水圏科学 A-GE40, 代表コンピーナ: 斎藤 (農工大)], セッションタイトル: Extending Hydrogeology — in memory of Professor Henry Lin (水文土壌学の普及 — ヘンリー・リン教授を記念して) [大気水圏科学 A-GE43, 代表コンピーナ: 登尾 (明治大)], セッションタイトル: Material transportation and cycling in aquatic ecosystems; from headwaters to coastal areas (水圏生態系における物質輸送と循環: 源流から沿岸まで) [大気水圏科学 A-HW32, 共同コンピーナ: 小林 (森林総研)], セッションタイトル: Role of scientists in rehabilitation of nuclear disaster areas (原子力災害被災地の地域復興における科学者の役割) [(地球人間圏科学 H-CG29, 代表コンピーナ: 西村 (東大)]. A-GE40, A-GE43 及び A-HW32 セッションの発表言語は英語, H-CG29 セッションの発表言語は日本語である。各セッションで土壌物理学会員による発表が見られ、幅広い分野の研究者が集う JpGU ならではの他分野の研究者を交えた活発な議論と交流が行われた。

本資料では、上記 4 セッションの概要および本大会での様子を報告する。